

農のひろば

高架道路下の空き地に放牧されている羊を示す瀧本さん



ヤギ・羊を放牧 荒廃地解消 農高生が協力、特産品開発も

長崎「島原半島ヤギ・羊ECOプロジェクト」

長崎県の島原半島でヤギと羊を活用した荒廃地解消プロジェクトが成果をあげている。従来は機械を使い人手で除草していたが、動物を「放牧」することで経費節減になるほか、二酸化炭素(CO₂)の発生も抑制できるなど環境にもやさしい。子どもたちなどが動物と触れあえる場にもなっている。ヤギ・羊の管理や肉などを使った特産品開発では地元農業高校の生徒が協力。今後は耕作放棄地対策など農業分野への応用にもつながりそうだ。

除草の経費かからず

きっかけは公園などの公用地に雑草が繁茂し、景観が損なわれるなどの一方、経費がかかり、管理が思うに任せないこと。県振興局の責任者が地元島原農業高校の知り合いの教諭に相談すると、ヤギ・羊を使うアイデアを提案され、それを実現することになった。

島原農業高校社会動物部の生徒たちとヤギ



環境にもやさしい

悪臭を放つアオアオサ(海藻の一種)の海岸での回収や飼料化の作業に社員を出向させている。

触れあいの場

一方、島原農業高校の生徒たちは放牧から帰ってきた羊などの健康管理をするほか、羊肉を使ったハンバーグや羊毛を利用したインテリアなど地域特産品の開発にも力を入れる。

社会動物部員の中村里穂さん(3年)は「ラムバーガーは臭みがなくおいしいと好評でした。いずれはハム・ソーセージにも挑戦したい」。また佐藤美鈴さん(同)は「2週間に1度はヤギ・羊の様子を見に行く」。福本理紗さん(同)は「ヤギや羊をたくさんの方が見に来る。動物たちのことを知ってくれてうれしい」とそれぞれプロジェクトへの参加を誇らしげに話す。

循環型畜産も

同プロジェクトは島原半島における循環型畜産モデルの構築も目指す。

協議会が発足

一つ目立っていたのが南島原市の海沿いを走る高架道路下の空き地。約2.5haに渡ってつる性の雑草が生い茂り、散歩する住民などから「何とかならないか」と苦情が寄せられていた。そこで昨年、21区画4か所・羊の飼育などに当たるほか、放置すると腐敗して公園などに放すと、かなりの勢いで草を食べ、背丈ほどもある雑草が短期間で刈られた。地域住民も集まるようになり、思わぬ地域活性化の効果も生んだ。

「島原半島ヤギ・羊ECOプロジェクト」と名付けられ、産官学が連携した資源循環の取り組みとして県が500万円を補助。7月には協議会も発足した。事務局が置かれている地元建設会社は「地域に少しでも貢献したい」(瀧本泰弘 野建設専務取締役)と、同プロジェクトの運営を積極的に担う。放牧したヤギ・羊の臭回りなどに当たるほか、放置すると腐敗して